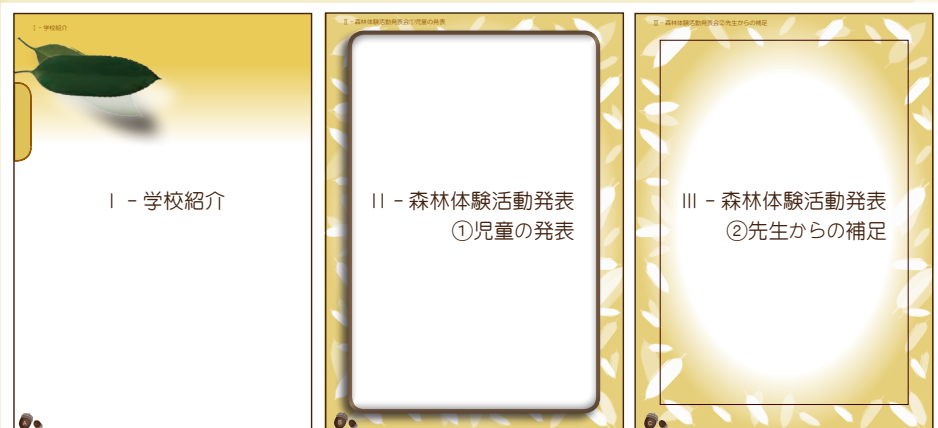


各小学校の取組

① 北海道	札幌市立 駒岡小学校	8
② 北海道	幌加内町立 朱鞠内小学校	11
③ 宮城県	仙台市立 愛子小学校	14
④ 山梨県	北杜市立 明野小学校	17
⑤ 長野県	松本市立 寿小学校	20
⑥ 長野県	松本市立 本郷小学校	23
⑦ 愛知県	岡崎市立 生平小学校	26
⑧ 愛知県	岡崎市立 秦梨小学校	29
⑨ 愛知県	豊田市立 西広瀬小学校	32
⑩ 福井県	あわら市 波松小学校	35
⑪ 滋賀県	日野町立 南比都佐小学校	38
⑫ 京都府	京都市立 金閣小学校	41
⑬ 京都府	長岡京市立 神足小学校	44
⑭ 京都府	木津川市立 棚倉小学校	47
⑮ 大阪府	能勢町立 歌垣小学校	50
⑯ 大阪府	岬町立 淡輪小学校	53
⑰ 兵庫県	神戸市立 北須磨小学校	56
⑱ 奈良県	奈良市立 吐山小学校	59
⑲ 山口県	美祢市立 於福小学校	62
⑳ 香川県	高松市立 屋島東小学校	65
◆	森林体験活動発表の講評	68

「各小学校の取組」基本構成



駒岡の秘密を探ろう！

北海道 札幌市立 こまおか 駒岡小学校
6年 谷口 嘉麟 島田 一生



学校紹介

駒岡小学校は、札幌市の南にある小規模特認校です。全校児童78人中、69人がバス通学をしています。学校の前には川遊びができる精進川、学校裏には「こまおかの森」と言われる学校林がある自然豊かな学校です。駒岡小学校には誰もが楽しみにしている全校宿泊が2回あります。夏は川遊びやキャンプファイヤー、五右衛門風呂、冬は歩くスキーや餅つき大会、尻滑りなどを、全校児童、保護者、地域の皆さんと一緒に楽しく活動しています。



活動場所

学校の裏にある 約1 ha の「こまおかの森」(学校林)が活動場所です。春には柴刈りや自分の木の選定、シイタケの植菌、夏には下草刈りや樹木博士講習会をします。秋には植樹や木登り体験、ネイチャーゲーム、冬には巣箱はずしや巣箱かけ、スノーシューを履いて冬の森を観察します。また、週に1回は1週800メートルのコースを15分間走る“学校林走”を行います。生活科では葉っぱや木の実を使った自然の遊び、総合的な学習では学校林を題材とした調べ学習をパソコンでまとめ、パワーポイントを使って発表活動を行っています。



サミットに参加してみよう...

今復の夢・希望・活動計画

駒岡小学校では、生活科・総合的な学習以外にも学校林を教科学習にも活用しています。例えば、国語では学校林を使った俳句作り、算数では比を使って自分の木の高さを求めたり、歩測を使って学校林走のコースを測ったりしました。

音楽では学校林をイメージした曲作りなども実践しました。「学校林」を中心にした教材化にする「駒岡の森プログラム」を現在、作成中です。

今後も、自然豊かな駒岡小学校で豊かな人間性と生きる力を育てていきます。



各小学校の取組 ①

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 京都

「駒岡の秘密を探ろう！」

北海道札幌市立 駒岡小学校
6年 谷口 嘉麟 島田 一生

【学校紹介】



駒岡小学校には、開校以来約60年間、子どもたちの学びの場として使われてきた約1ヘクタール学校林があり、平成20年にはエゾリスや野鳥が休める場、子どもたちが観察できる場として、屋上にビオトープを設置しました。また、学校前を流れる精進川に気軽に入られるようにと、平成21年には、親水施設も設置され、子どもたちは、木々や草花、虫や野鳥、水中の生物など、豊かな自然と触れ合いながら活動しています。

【活動場所の紹介】

学校林には、1周800メートルのクロスカントリー走のコースがあり、毎週木曜日の「こまおかタイム」の時間にそのコースを走っています。また、児童全員が自分のマイツリーを持っていて、6年間を通して、観察したり、いろいろな学習に役立ったりしています。野鳥が多く生息し、巣箱を設置して野鳥の巣作りの手助けもしています。



駒岡の秘密を探ろう！

- ❖ 1・2年生の生活科、3年生以上の総合的な学習で学校林をテーマに様々な活動をしています。5・6年生はその集大成として、駒岡の秘密を探ってみました。

【谷口 嘉麟】

ハリギリ・マイズルソウ・ハウノキなどの葉を調べ、その葉の黄金比について調べました。その結果、ハリギリの葉が学校林の中で一番美しい葉であることがわかりました。



【島田 一生】

学校林にはたくさんのきのこが自生しています。そのきのこの毒性について調べました。学校林にあるニガクリタケとテングタケにはそれぞれ毒があることがわかり、学校林で活動するときは、十分気をつけようと思いました。



- ❖ このように、ぼくたちの学校林には、まだまだたくさんの秘密が隠されています。6年間学校林で学習したことで、鳥や草を見たとき、「あっ〇〇だ！」とすぐに言えるようになったり、家族と山登りをしたときなどでもその植物についての特徴を説明したりできるようになりました。



こんな活動もしているよ！

クロスカントリー走

ツリークライミング

全校宿泊学習

歩くスキー

子ども樹木博士認定会

植樹活動

巣箱かけ



森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- ◆ 学校林の教材化：生活科・総合学習のみならず、各教科で「学校林」を扱った学習を実践している。木の高さを比で求めたり、気温の変化を学校林内とグラウンドで比較したり、学校林の自然の音を楽器で表現するなど、子どもがよく知っている場所を学習で扱うので、意欲化や深化が図られる。
- ◆ 学校林での自然遊び：異学年の縦割り班で実施：生き物観察や森遊びを自分たち（上学年がリードして企画立案する）で計画して実行する活動を通して、責任感や自立・協力する心が培われる。
- ◆ 愛鳥活動：異学年の縦割り班で実施：野鳥観察や巣箱観察（親鳥の出入りを見る）、秋の巣箱かけの活動から、命を中心に成長していく鳥と子ども自身を重ね合わせ、互いの成長を共感し合う。
- ◆ クロスカントリー走：毎週木曜日 個人：春から秋：学校林内の1周で800mのコースを走り、自分のペースで20分間で何周するか決めて走る。子ども同士 互いに声を掛け合って励ます。冬は歩くスキーで体を鍛えている。過酷で苦しい状態であるが、やりきった汗と充実感を体感できる。
- ◆ 自分の木選定、植樹・シイタケ植菌、樹木検定：NPOの方々の協力：森林を親しむ心が培われる。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

- ◆ 学校林内（約1ha）を、子どもが縦横無尽に移動するので、子どもの安全を確保するための教職員数の不足による管理体制のきめ細やかさが足りなく、やや不安である。
- ◆ 学校林を学習で扱う場合：動植物の正式名や自然現象の起きる理屈をどのように説明するか専門的な知識が教師にはあまりなく、苦労することがある。勤務している教師は、自然科学の専門的な知識をもちあわせているとは限らない。また、学習内容によっては正式名を調べて扱うと良いのか、偽名（低学年：子どもが名づけた名前や間違っただままで扱うのか）でよいのか、迷うことがある。
- ◆ 本校は、NPO（営林署OB）に森林体験学習の一部をお願いしている。外部の方々に学校のシステムなどを理解していただくことや事前の打ち合わせなど、時間の確保などに苦慮することがある。
- ◆ スズメバチ、ダニなど虫に刺されること、植物による草かぶれへの安全対策：ハチトラップの作成と設置、長そで長ズボン・軍手の着用や手ぬぐいを首に巻くなどの対策を取っている。昨年は、校区内でのヒグマ出没によって、学習活動を制限させられることもあった。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

- ◆ 毎朝、始業前、職員によってコースを巡回して安心して学習ができるように安全の確認をしている。
- ◆ NPO（営林署OB）の皆さんに学校林の保守管理をお願いし、伐採・植樹・樹木名・維持管理の方法など専門的な見地から助言をいただいている。
- ◆ 学校林内での学習では、担任教師の他に補助教師がつく。連絡体制として全員がトランシーバーを持参し、指導監視範囲を決めている。また、事前に緊急時における病院への搬送と保護者への連絡体制・引き取り体制を整え、万が一の事故への対応をシミュレーションしている。
- ◆ NPOの皆さん以外にも、北海道庁林務課・林業試験場・札幌市みどりの推進課など、関係団体と連携して子どもの学習を支え、専門的な見地から適切な助言をいただいている。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

- ◆ 学校林再生事業として、NPOの皆さんに毎年、樹木を伐採してもらい日光が地面まで届くようにし、切った樹木はシイタケのほだ木に使っている。また、子どもによる植樹作業を地域と保護者とともに実施している。今度も学校・保護者・地域・関係団体が協力して学校林を保守していきたい。
- ◎ 人間にとって欠かすことのできない自然とのかわり、人とのかわりを学ぶ場が姿を消しつつある今、それを実現する場として本校が担う役割は大きいといえる。本校の恵まれた自然環境を学習に生かし、子どもが自分の身体と五感を総動員し、仲間とのふれあいを通して心と体を育む実践をこれからも続け、北海道のみならず日本中に発信していきたいと考えている。

わんぱくの森と共に成長した ぼく達の6年間



北海道 幌加内町立 ^{しゅまりない} 朱鞠内小学校
6年 渡来 璃久 仙丸 陸

各小学校の取組 ②

学校紹介

朱鞠内小学校は、北海道の北西部を走る天塩山地のふもとにあり、開校から95年になります。豪雪・極寒の地域として有名で、冬は積雪が2mを超えたり、気温が-30度近くになったりすることもあります。また、すぐ近くに人造湖の中では湛水面積が日本一の朱鞠内湖があり、キャンプや釣りなどで大勢の方が訪れてきます。

全校児童は9名で、自然の豊かさと厳しさを感じる中、明るくたくましく生活しています。学習や行事などでは地域との結びつきもとても強く、いつも温かく見守られながら過ごしています。



活動場所

「遊々の森」は学校のすぐ裏にあり、平成15年に創設されました。1年に4回、各2時間ずつ、空知森林管理署北空知支署の方達が、森の中での様々な体験活動を進めてくださいます。

春には 白樺の樹液を飲んだり

夏には いろいろな形をした葉っぱ探しをしたり

秋には 木片や木の実で工作をしたり

冬には コンパス測量で雪の下に埋められた宝物を探したり

樹木のことや森にすむ動物たちのことを知ることのできるのも、みんな「わんぱくの森」と呼んでいるこの活動をととても楽しみにしています。



サミットに参加してみても...

今復の夢・希望・活動計画

全国子どもサミットに参加して、各学校の工夫した活動を知ることができたことは、とても良い勉強になりました。特に、巣箱を設置している学校の取組を聞いて、ぜひ自分達もやってみたくらいと思ひ、早速えさ台を作成しました。どんな鳥たちが来てくれるか、これから観察していきたいです。

また、今年の春に植樹した「エゾヤマザクラ」も順調に育っています。これから冬を迎えるにあたり、積雪で押しつぶされてしまわないよう、ヘキサチューブを設置して、今後の生長を見守っていきたいです。

北海道幌加内町立朱鞠内小学校

発表者：渡来 璃久・仙丸 陸

先生：瀧川 明

テーマ：わんぱくの森と共に成長した ぼく達の6年間



1. 学校の紹介

●ぼく達が通っている朱鞠内小学校は、北海道の北部にあります。学校は、山に囲まれています。また近くには、人造湖としては面積が日本一の朱鞠内湖もあり、自然がとても豊かです。

2. 活動フィールドの様子

●遊々の森は、学校のすぐ裏にあり、ぼく達はそれを「わんぱくの森」と呼んでいます。

春・夏・秋・冬の各季節に1回ずつ、森林管理署の皆さんが来てくださって、ぼく達に木のことや動物達のことを教えてくれます。ぼく達は、「わんぱくの森」をととても楽しみにしています。



3. 活動の内容や様子

●（1年生）この時、不思議なキノコも見つけました。緑色で、テカテカしていてきれいでした。森にはおもしろい植物があるのだなと思いました。



●（2年生）「森の色あわせゲーム」をしました。探してみると、キノコや葉っぱやコケなど次々と見つかりました。森は、たくさんの色であふれているのだなあと感心しました。

●（3年生）コンパス測量のやりかたを教えてくださいました。ただ自分でやってみたら、ちょっとでもずれると、方角や距離がおかしくなってしまうので大変でした。森林管理署の方は、難しいことをやっているのだなと思いました。



●（4年生）カードをひいて、そこに書かれた「あしあと」、「においがするもの」などを見つけてくるというゲームをしました。冬の森は、何もないうで探せばけっこういろいろあるのだなあとと思いました。



●（5年生）ミズナラの幹に聴診器をあててみました。すると、「ゴーゴー」と水が流れるような音がしました。見た目ではわからないけれど、木も活動しているのだなあとと思いました。

（6年生）●エゾヤマザクラの苗木を30本植樹しました。森林管理署の皆さんや地域の老人クラブの皆さんも一緒でした。樹齢が千年以上の桜もある、という話を聞いたので、この桜も千年以上生き続けてほしいなあとと思いました。



4. まとめ・感想

●（渡来）わんぱくの森では、ゲームや工作などをして楽しかったです。また、木も植えましたし、森のこともいろいろとわかりました。

森は、楽しいところです。遊んだりキャンプをしたりすることもできます。また、森の中にいると、すがすがしい気持ちにもなります。

ぼくは、こんな森をいつまでも守っていきたいと思います。



●（仙丸）1年生の頃は、森は木がたくさんあるだけなのかなと思っていました。でも、6年間のいろいろな活動を通して、森には大事な働きがあることがよくわかりました。

ぼくは森が好きです。おもしろい植物があったり、虫もたくさんいたりします。これからも、自然をこわさないようにゴミ拾いをしたり、植物や虫を大事にしたりしていきたいです。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

1年に4回、森林管理署の方々が、森での体験活動を進めて下さいます。ネイチャーゲームをしたり、白樺の樹液を飲んだり、測定の仕方を教わったりするなど、普通の授業にはない活動ばかりなので、子ども達も毎回とても楽しみにしています。

1回あたりは2コマですが、継続して取り組んでいくことで森の植物や棲んでいる動物に対する関心もどんどん高まっています。遠くから眺めているだけではなく、実際に森の中に入っていくことで、森に対する愛着がわき良さもわかり、自然を大事にしようとする態度が育っていくのだと思います。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

活動は、森林管理署の方々がメインで進めてくださるので、教師には準備などの負担は少ないのですが、もっともっと学校側が関わりを深く持たなければならないと思います。

また、「わんぱくの森」の時以外で、森に入って何か活動をするということはあまりしていません。学校のすぐ裏に森があるという好条件が、十分にいかしきれていないと感じています。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

まずは、森林管理署の方々との関係を深めることに取り組みました。例えば「わんぱくの森」での活動が終わったら、子どもたちの感想や次回にやってみたいと思ったことなどをまとめ、その内容を森林管理署に送るようにしました。森林管理署の方々に、活動の手応えを感じられたり、次の取組の参考にもしていただけるようになりました。

また、「わんぱくの森」だけに限定せず、他へと活動を広げていくことにしました。地元には、北海道大学の研究林があるので、林長さんにフィールドに連れて行ってもらってお話を伺ったり、社会見学で、板紙工場や木工場に行ったりもしました。森や木に関するつながりを増やしていくことで、子どもたちの森に対する見方も、いろいろと広がっていています。

さらに今年は、北海道山林種苗協同組合青年部さんより“エゾヤマザクラ”の苗木を30本提供していただきました。それを、学校のグラウンドの縁に沿って植樹しました。森林管理署の方々にご指導いただき、また地域の老人クラブの方々にもご参加いただいて、賑やかに行うことができました。特に6年生は、5年生の3学期に社会科で林業や環境についての学習もしていたので、とても張り切っていて、有意義な取組となりました。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

今後、「わんぱくの森」を活かした取組を、増やしていきたいと思います。例えば、森や木の絵をかいたり、冬には歩くスキーやかんじきをはいて森の中を探検したり、山菜を採ってきて調理したりするのも、おもしろいかもしれません。

エゾヤマザクラの植樹は無事終わりましたが、これからの維持が大変です。特に、朱鞠内は豪雪地帯なので、積雪が2mを超えることもありますし、鹿や小動物による食害も心配です。ですが、大阪のハイトカルチャ社さんのご厚意で、ヘキサチューブをいただくことができたので、安心して成長を見守ることができる環境が整いました。

これからぐんぐん生長し、冬の厳しさにも耐え、何年先になるかはわかりませんが、たくさんの桜の花が咲き誇ってくれることを、子どもたちや地域の皆さんたちと願い楽しみにしたいです。